

著者 趙啓正(中国) ルイス・パロー(米国)
訳者 田建国(中国) 岩城浩幸(日本)

岸 辺 の 対 話

無神論者と
クリスチャンとの
友好交流

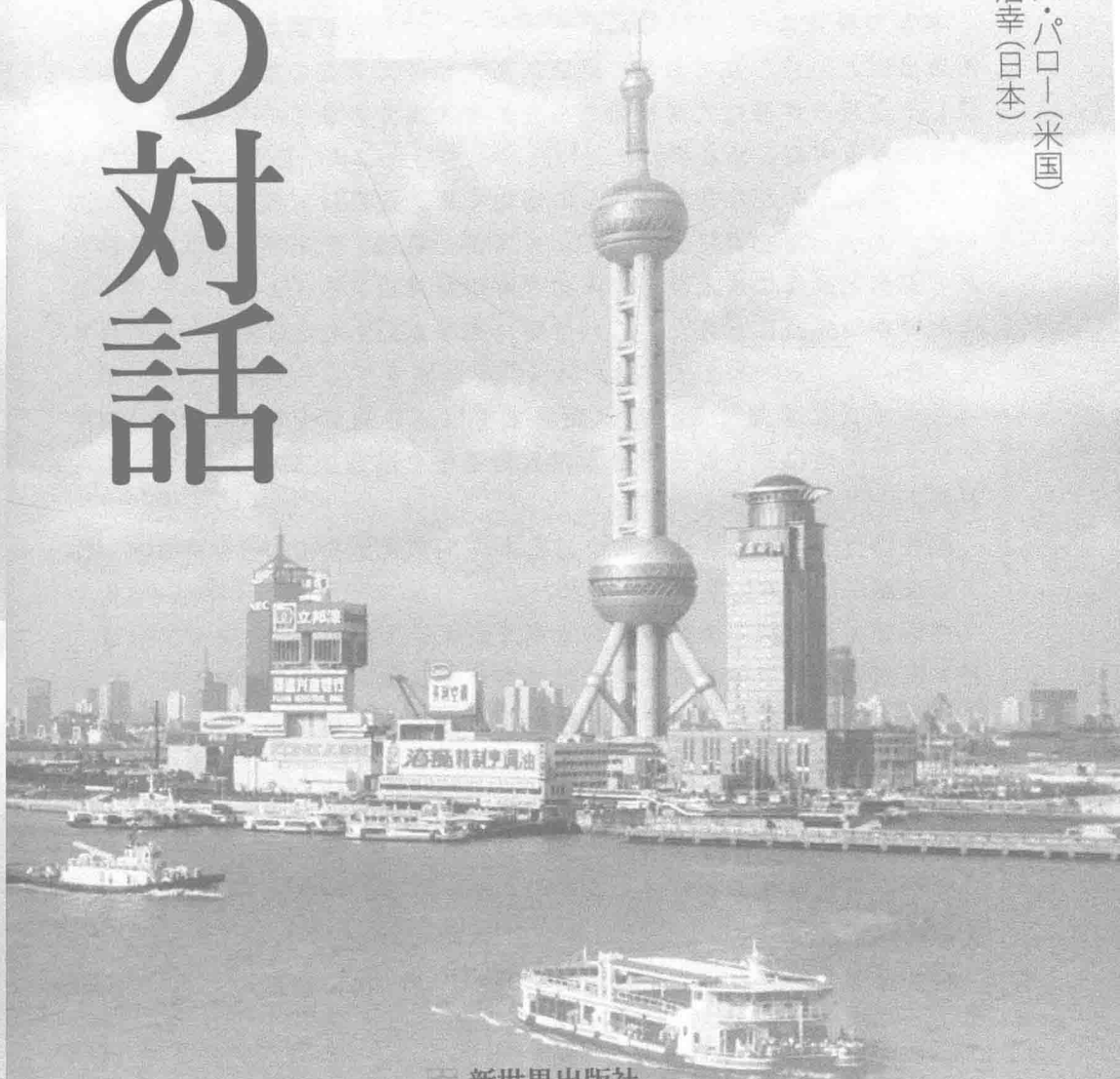


 新世界出版社

著者 趙啓正(中国)
訳者 田建国(中国)
ルイス・パロー(米国)
岩城浩幸(日本)

無神論者と
クリスチャンとの
友好交流

岸 辺 の 対 話



面 新世界出版社

图书在版编目(CIP)数据

江边对话：一位无神论者和一位基督徒的友好交流：
日文/赵启正，(美)帕罗著；田建国，(日)岩城浩幸
译．—北京：新世界出版社，2014.10
ISBN 978-7-5104-5179-9

I. ①江… II. ①赵… ②帕… ③田… ④岩… III.
①宗教—研究—中国—日文 ②基督教—研究—日文 IV.
①B929.2 ②B978

中国版本图书馆CIP数据核字(2014)第235458号

江边对话(日)

作 者：赵启正 路易·帕罗

翻 译：田建国 岩城浩幸

责任编辑：李淑娟 乔天碧

审 定：薛建华

装帧设计：贺玉婷

责任印制：李一鸣 黄厚清

发行部：(010) 6899 5968 (010) 6899 8705 (传真)

总编室：(010) 6899 5424 (010) 6832 6679 (传真)

<http://www.nwp.cn>

<http://www.newworld-press.com>

版权部：+8610 6899 6306

版权部电子信箱：frank@nwp.com.cn

印 刷：北京京华虎彩印刷有限公司

经 销：新华书店

开 本：787×1092 1/16

字 数：100千字 印张：9.75

版 次：2014年10月第1版 2014年10月北京第1次印刷

书 号：ISBN 978-7-5104-5179-9

定 价：78.00元

版权所有，侵权必究

凡购本社图书，如印刷、装订等错误，可随时退换。

客服电话：(010)

謝 辞



本書の特殊なテーマに加えて、中国語版と英語版の同時出版ということもあり、翻訳にあたっての双方の橋渡しや出版の実務は大変複雑だった。中米双方の多くの方々から多大のご協力をいただいた。

林戊蓀氏と夫人の張慶年さんに感謝する。彼ら是对談のビデオテープを繰り返し見て、中国語、英語、それぞれの翻訳と校正に当たり、二人の作者の対話のスタイルを的確かつ完璧に伝えた。これは特にありがたいことであった。

張洪斌氏に感謝する。彼は現場で中国側の通訳をつとめると同時に、その後の双方の通信連絡を担当してくれた。

姚俊梅博士に感謝する。彼女は七万字もの記録を今のような簡潔な文体に整理してくれた。

中国社会科学院宗教研究所の卓新平所長、上海市社会科学院宗教研究所の晏可佳所長に感謝する。彼らは本書に登場する宗教の専門用語に正確を期すための指導をしてくれた。

呉偉女史に感謝する。彼女は米国側との出版実務関係の検討を重ねてくれた。

英語版の編集作業をしてくれたジェイ・フォーディス氏に感謝する。

貴重な連絡を重ねてくれたボブ・アーノルド氏に感謝する。

勤勉な仕事をしてくれたロブ・タッカー氏、デビット・ライト氏、そして、ZDL の全ての方々に感謝する。

エノック・ワン氏の見解に感謝する。

中国から来た友人を招待してくれたジム・ビスニウス氏とジャン夫人ご夫妻に感謝する。

数多くの撮影者に感謝する。中でも上海の陳石隣氏と米国のブラッド・パーソンズ氏は現場の写真を、劉永新氏は貴重な歴史写真を提供してくれた。

すばらしい手配をした中国国務院新聞弁公室と上海市新聞弁公室に感謝する。

本書に情熱あふれる関心を寄せ、中国語版、英語版のチェックと原稿確定作業をしてくれた国際翻訳者連合会副主席で中国翻訳者協会副会長兼秘書長の黄友義氏に感謝する。

現場で通訳をしてくれた崔保羅氏と、苦勞を厭わずに中米双方の連絡をしてくれた頼声漢氏に感謝する。

最後に忘れてはならないのは、この対談にお骨折りいただいた中国国際友好連絡会の陳祖明氏と石磊氏である。

趙啓正

ルイス・パロー

序の一



趙啓正

このようなテーマの本の作者の一人になることは、予想もしなかった。パロー博士との、誠実かつ旧知のような第一回目の対談がなければ、彼と私が協力してこの本を出版するという提案はなかったはずである。

パロー博士と三回にわたって対談するまで、私は神を信仰しない多くの中国人の中の一人であり、自分の家族、同僚、友人とは、宗教観においていささかの以外もないという認識以外なかった。

パロー博士は神学者であり、アメリカの宗教指導者の一人である。その学識該博、しかも率直で、誠意と情熱にあふれている。私は彼を大事に思っている。彼と対談する無神論者は宗教に関する豊富な理論的素養の持ち主であり、哲学者であるべきなのに、私はただ単に哲学の授業を受けたことがあるというだけで、20年余の科学研究活動や20年余の公務員の仕事の中では、常に素朴な哲学的思考しかなかった。だから、8時間に及ぶパロー博士との対談の中で、私は単に率直に宗教、特に神に関する自分の認識を述べただけで、神学の専門用語を引用することはなかった。それは、私には神学的素養が一切備わっていないからである。

対談の中で私は中国古典の故事「濠梁対話」を引用して、パロー博士が無神論者（あるいは神を信仰しない者）の気持ちを体験し難いかもしれないと話したが、実は私も同様に有神論者（或いは神を信仰する者）の気持ちを体験し難い。対談を通じて私は、文化的背景の異なる人々では意思疎通が難しいという懸念を、多少変えることになった。気持ちさえあれば深く突っ込んだ意思疎通は可能であり、「濠梁対話」の二人の

知者と魚のように永遠にコミュニケーションがとれない、ということはないのだ。

本書が出版される前に、私はもう一度全文を読んでみた。そして、私とパロー博士とは神の存在に関する考え方が全く正反対であることを知った。彼は神の存在を検証する実験室が人々の心の中にあり、心の中で神の存在を認めれば神とコミュニケーション可能だと考えている。私はその実験室が人々の心の外にあり、神の存在が検証されてはじめて神とコミュニケーションが可能になると考えている。これは、私たちのいくつかの重要な見解に食い違いが存在する原因となっている。

読者のみなさんが本書の観点に賛同することを、期待するものではない。だが、私たち二人の対談に対する態度には賛成していただきたいと思う。異なる国家と地域では、有神論者と無神論者という二つの名詞を、「違った目で見ると」ことは承知している。しかし私とパロー博士は、この二つの言葉に本来あつてはならない「過小評価」がもたらす障害を乗り越えて、鋭く対立しがちなテーマを双方向のスムーズなものにした。

私たちが共通して好きな言葉は「和諧（調和がよくとれている様子。harmony、harmonious——訳者注）」である。人と人との交流の中で、まず二人の和諧からスタートする。そうすれば国家、民族、信仰を異にする人々の間の和諧に必ずつながっていくと断言できる。私たちの間のこの一つの共通点が、多くの食い違いと誤解を乗り越えさせてくれたのであり、これこそ本書の信念なのである。■

序の二



ルイス・パロー

私は幼い頃からアルゼンチンで暮らし、子供の頃すでに中国に関する神秘的な物語を耳にして、この国の人、歴史、文化にずっと心引かれ、夢見てきた。私は中国を愛し、この偉大な国とその国民が最も美しい祝福を受けることを願っている。いま、優れた中国の高官である趙啓正氏を知り、理解したことで、中国を愛し尊敬する感情が一層深まった。

神が中国を愛することを心から信じ、神が中国に美しい心を抱いて、この国と国民に神の愛と祝福があることを信じている。

したがって、大変光栄なお招きを受けて訪中し、優しく親しみやすく尊敬に値する趙啓正氏と友人になれたことを幸いに思う。趙啓正氏とは去年、三度の対談を行った。その中で、私たちは率直且つ誠意を込めて、お互いの信仰について討議を深めた。また、お互いの異なる文化に対するそれぞれの理解と誤解についても話した。大変勉強になった。対談によって私たちは、お互いの信仰について新しい理解を得ることができたと信じている。

趙啓正氏が対談の中で述べているように、神、一生、永遠に関する私たちの見方は、多くの面で全く異なる。しかし私たちは、これらの食い違いは二人が本当の友人になってお互いを尊重しあうことを妨げるものではないと表明する。イエス・キリストとの福音を伝道する使者として、私はいささかの留保もなく＜聖書＞を信じ、＜聖書＞が神の道と信じ、それが私たちの命に密にかかわりあって、生命を変える巨大なエネルギーを有するものと信じている。

世界にイエス・キリストとその教えを伝播し、その不滅の贈り物を世の人々にもたらすことが私の責任であり、同時にこの上ない光栄でもある。私は神の呼びかけを守っていきたいと思う。イエス・キリストは世の全ての国、全ての人に、生命の自由、涸れることのないエネルギーと永遠の満足を提供するものと、私は信じている。

卓越した実績によって尊敬されている科学者として、趙啓正氏は論理、事実、法則そしてすでに検証された結論を根拠にして、物事を評価し判断する。これは私たちの対談を、生き生きとして誠実かつ率直で、深く考えさせるものとした。私たちは、自らが長じている知識と見解を縦横無尽に使って、私たちの世界と私たちが存在している根本的な原因を一層よく理解することができた。この対談集を読み終えた時、全ての読者が私たちとともにこれらの思想の閃光を分かち合うことを願っている。

対談が深まっていくにつれ、私たちが二つの社会の間のコミュニケーションの架け橋となっていくことを望んでいる。この誠実かつ率直で開放的な対談によって、人々がさらに真理を理解するのに役立つとともに、私たちが大きな食い違いの上でお互いに尊重しあい、真摯な友情を築き上げることを願っている。

あなたの前に来て、あなたに私の気持ちを表明させてくださったことに感謝する。この70年来、私は中国のために永久の切なる祈りを続けてきたが、今日、現にこの国に来て新しい友人と知り合えたことに、心の底からのお礼を申し上げたい。私は中国を愛している。■

目 录

目 次



一、〈聖書〉と神について 7



二、〈創世記〉について 19



三、宗教と精神について 27



四、中国の宗教信仰について 49



五、中国・西洋の文化と哲学について 61



六、宗教と科学について 79



七、宗教と社会の調和 111



2005年11月7日、対談後の記者会見に出席した趙氏とパロー氏

私たち二人はとも、純粹に二つの文化の寵児である。私たちがイデオロギーの隔たりを打ち破り、広範な領域にわたる各種の異なる見方について意見交換することによって、もともとどちらかという疎い問題に関しても、私の思考をスタートさせてくれた。パロー氏が中国を愛すると言ったことは、私を感動させた。そして私たちの率直さと誠意によって、信仰の違いが障害にならず、言葉の違いが障害にならず、教育の背景の違いが障害にならなかった。私たちはともに地球の和諧、すなわち調和のために貢献したいと願っている。

——趙啓正

私は100以上の国へ講演に行き、多くの高層の方々と対談したことがあるが、趙部長のような知恵に満ちた思想家、哲学者との対談は得がたい喜びである。趙部長¹との対談は、この30年の間に思ってもみなかった問題について考えさせてくれた。この対談集を読んだアメリカ人は、中国に対する理解をさらに深め、知識を追求する中国人の情熱を一層知ることになり、近年来中国で起っている巨大な変化をよりよく知ることができるようになると思う。

——パロー

1 中国の閣僚ないし閣僚の肩書きは「部長」または「主任」で、総称として「部長」とも呼びならわす。趙啓正氏が任に就いていた「國務院新聞弁公室主任」は閣僚級ポストであるため、原文中に「趙部長」という呼称が何度か出てくるが、雰囲気伝えるため日本ふうの「大臣」、「長官」に置き換えず、原文のまま残した。（訳者）



両氏対談後の記念撮影

趙啓正とパローとの一回目の対談

2005年5月20日、北京

中国国务院新聞弁公室外国人接待室にて



2005 年、北京で行われる『フォーチュン』グローバルフォーラムでスピーチする趙氏

パロー（以下「パ」と略す）：趙さん、このところ各マスメディアがあなたのことを報道しています。《フォーチュン》の全球論壇（Fortune Global Forum）¹を主催したので、新聞、ニュースのトップ人物です。ですから、新聞やテレビで何回もお目にかかっています。お忙しい中、お招きいただいて大変嬉しく思っています。電話で妻に、テレビで見たあの趙さんにまもなく会うのだと話したところ、妻が、どうして私を連れていってくれなかったの、私も会いたかったのと言っていました。

趙啓正（以下「趙」と略す）：いいですね。ご夫人の中国訪問を歓迎しますよ。残念なことに今日はテレビ局の友達に声をかけていないのですよ。そうすれば、ご夫人が私たちの面会を見ることができたのに。

¹ 2005 年の北京＜Fortune＞Global Forum はアメリカのタイムワーナー（Time Warner）社が主催したもので、趙啓正が中国側協賛責任者。この論壇には世界 500 の大企業経営者、中国からはリーダーである胡錦濤主席、温家宝総理、閣僚、企業家が出席した。



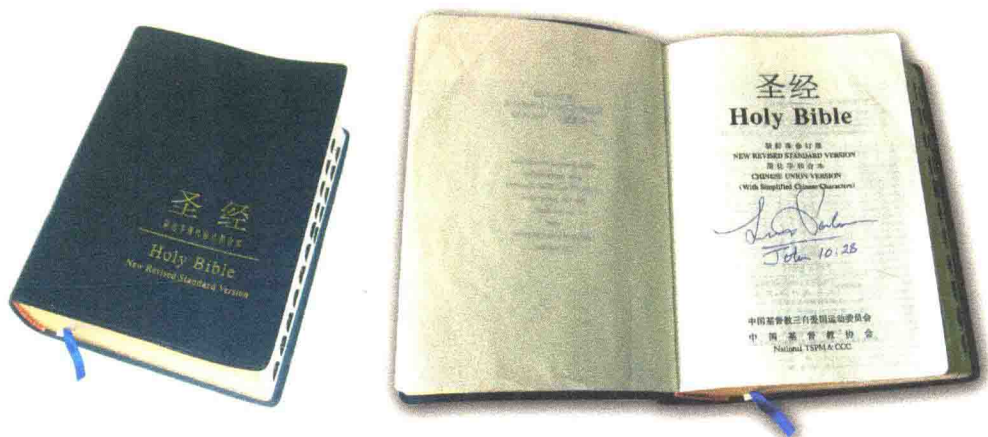
趙氏の取材に答える国内外の記者

パ：そうですね、妻を連れてくればよかった。今日の面会がテレビ番組にできればよかったですね。

趙：アメリカの宗教界に友達が二人います。アメリカキリスト教三一放送（TBN）社のポール・クロウチ氏と、アメリカキリスト教放送ネット（CBN）のロバートソン氏です。

パ：その二人は私の友達でもあります。クロウチさんが、よろしくお伝えくださいと言っていました。彼が＜聖書＞をさし上げたことがあると言っていました。

趙：あの＜聖書＞はまだ大事に持っていますよ。無神論者ですが、＜聖書＞を読んだことがあります。＜聖書＞の英語はとても綺麗なので、＜聖書＞を英語のスタンダードテキスト



パロー氏が認め、サインした＜聖書＞

トにして英語を勉強しているのです。

パ：英語のテキストにする場合、どの版を読むかということがあります。

趙：同僚に、私のオフィスにある＜聖書＞を取ってきてもらうので、チェックしてください。（すぐに＜聖書＞が取り寄せられる）来た、来た。見てください、これです。

パ：これはとてもいい版です。どうぞ英語のテキストにしてください。

趙：では、この英語版が一番いいというお墨付きに、サインしていただくことにしましょうか。

一、〈聖書〉と神について

無神論者は言う。〈聖書〉はキリスト教の經典で、教義の根拠である。〈聖書〉は歴史書、文学書でもあり、宗教の哲学書でもある。私は〈聖書〉を読むが、信徒ではない。

クリスチャンは言う。〈聖書〉は人に対する神の完全な啓示であり、その中から精神的な収穫を得ることができる。人々が神を理解できない場合、イエスに助けてもらって神と対話する必要がある。